Hello, Kids!

小学校英語
情報誌

2010
Vol.4-1

特集:来年度からの本格化実施を前に

Let's cook curry!の授業では,レシピを見て指示する役と料理する役になり,楽しみました。

愛知県豊田市立
古瀬間小学校
梅田 由美子先生

使いたいカード類がすぐ探せるように,英語ルーム背面の棚に整理しています。

巻頭言 小学校で外国語を学ぶ(教える)意義
高橋美由紀(愛知教育大学大学院教授)……2
小学校英語教育の多様な取り組みとニーズに応じた研修
上江洲 隆(沖縄県北谷町立北谷中学校校長)……3
実践報告 子どもの"わくわく感"を大切に!
前田善仁(神奈川県座間市立入谷小学校教諭)……4
目的意識や必要感のある活動を!
本水恭子(福岡県福岡市立筑紫丘小学校教諭)……6
Say "Hello" with Alison!
根本アリソン(福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師)……8
研究会紹介 神戸市小学校教育研究会 国際教育部……8

開隆堂

巻頭言

小学校で外国語を学ぶ（教える）意義

愛知教育大学大学院教授　高橋 美由紀

平成21年度「小学校外国語活動」の円滑な導入並びに実施を目指して，愛知県の各地域で中核教員を育成する「小学校外国語活動プロフェッショナル派遣事業」が行われました。この事業は，講師が指導助言をするだけでなく，県内の小学校で実際に45分間の外国語活動の授業を実演し，それを先生方が参観する研修であったことで注目されました。その講師の一人として，私は，多くの子ども達に直接接し，指導できる機会を得ました。

「初めて出会う子ども達と参観される先生方に，一回限りの授業で，何が伝えられるのか?」—私は，外国語を学ぶ(教える)「楽しさ」や，「意義」を理解してほしいと願いながら，学校の要望や学習進度，子ども達の様子を事前に伺ったうえで，指導案や教材を作成しました。

ここで，私の授業の一コマを紹介しましょう。『英語ノート1』の「Lesson 7 クイズ大会をしよう」にある“What's this?”，“It's ….”を扱った5年生の授業では，五感を使用して，①傘や雪の結晶など，ものの拡大図の一部分・分割した絵を順番に見て当てる(視覚)，②カメラのシャッター音や，ポップコーンのはじける音などを聴いて当てる(聴覚)，③ブラックボックスに入れたもの・新聞紙で包んだものを触って当てる(触覚)，④目隠しして食べ物を味わって当てる(味覚)などを行いました。

同じレッスンを6年生でも，という要望がありましたので，子ども達の認知発達を考慮した中学校へ繋げる活動とし，さらに調べ学習的な活動を通して，「言語・文化」の理解を深める教育となるよう以下の内容としました。

①「同じ漢字を使用することばでも，日本と中国では意味が異なること」をクイズにして行いました。

漢字	日本での意味	中国での意味
汽車	train(汽車)	car(汽車)
手紙	letter(手紙)	toilet paper(トイレットペーパー)
湯	hot water(湯)	soup(スープ)

②言語の背景にある文化について，「日本語と英語の違い」について，クイズ形式で行いました。

雪だるま	胴体は2つ 目鼻口の材料は木炭	
snowman	胴体は3つ 尖った鼻の材料はにんじん	

これらの活動では，外国語を通して，楽しくコミュニケーションができる場面設定をすることや，言語力を育成すること，さらに，言語・文化の背景を知り，自己認識と他者理解ができることを重視しました。

外国語は，「外国の人々とコミュニケーションを図る手段」として学ぶ(教える)ものであり，外国語を操る特別なスキルよりも，人との関わり合いの中で，お互いを理解し合おうとする心をもつことが大切だと思います。

将来，日本の子ども達が，国際社会で生きるために必要なことは，彼らが日本人としてのアイデンティティを確立したうえで，①世界には英語をはじめとした様々な言語があることを知り(理解し)，②日本とは異なった風俗・習慣，文化があり，自分(日本人)とは異なった考え方や感じ方があることを学び，③誰とでも意見交換ができるという意識と能力をもつことです。

「小学校外国語活動」では，このような点を重視して，小学校でしかできない子ども達のための教育を行ってほしいと願っています。

私の地区の取り組み

小学校英語教育の多様な取り組みとニーズに応じた研修

沖縄県北谷町立北谷中学校校長（前･沖縄県立総合教育センター研究主事）　上江洲 隆

1. 沖縄県での多様な取り組み

沖縄県の小学校英語教育の特徴は以下の4つに分類できる。まず，文部科学省研究開発学校として取り組んでいる学校，次に，内閣府英語教育特区の学校，3つ目に，部分イマージョン教育を行っている学校，最後に，通常の英語活動として取り組んでいる学校である。

那覇市では平成15～20年度まで市内の小中学校が文部科学省研究開発学校の指定を受けた。学年別に6地区の小学校を拠点校とし，各拠点校の児童が進学する中学校の英語担当教員を3年間，小学校へ配置することで，英語活動の推進役となり，担任を中心とした授業作りや小中連携の取り組みを研究した。成果としては，まず，中学校英語教員をモデルとすることで担任中心の英語活動が実践できるようになった。次に，小学校で指導した中学校英語教員は3年後中学校に戻り，小学校で指導した生徒を中学校でも指導し，英語活動の実践内容を中学校英語教育のカリキュラムと連携させ，到達度テストなどの正答率も向上した。

南城市では文部科学省研究開発学校の指定(平成19～21年)を受け，担任を中心とした英語活動が活発に行われており，小学校英語活動の指導内容を具体的に中学校の年間計画の中に位置づけるなど，指導内容の連携などもスムーズに行っている。さらに，スキル面においても児童英語検定ブロンズテスト(リスニングのみ)の結果が全国の研究開発学校の平均点を超えており，担任を中心とした授業が確実に成果を出している。

浦添市では平成16年1月に内閣府の特区認定を受けた。成果としては，那覇市と同様，小中連携の充実を図る取り組み，絵本を活用した指導や地域の外国人などと連携した英語活動を展開している。また地域内にJICA沖縄国際センターなどもあり，外国人研修員との交流も盛んである。

宜野湾市は平成15年7月，沖縄県で最初に内閣府の特区認定を受けた。小学校1・2学年で週1時間，年間35時間，3～6学年が週2時間，年間70時間の英語教育を実施している。特徴としては，ALTとJTE2名が，各小学校で指導にあたっている。成果としては平成20年度に実施した児童英語検定ブロンズテスト(全国7,064名参加)でも全国正答率84%中，宜野湾市は92%近い正答率で，語句，会話，文章と3つの領域でのパフォーマンスのバランスの良さが顕著な特徴である。

この結果は，那覇市が英語検定5級の問題を研究開発学校で学んだ中学校1年生を対象に実施(平成17年)した際に，小学校での英語活動を週2時間，年間70時間指導した生徒のパフォーマンスが最も高かったこととも一致する。

平成21年度，宜野湾市普天間小学校での6年生の研究授業ではJTEが内臓の臓器の名称とその働きを説明し，児童が内臓にある各臓器の名称とその働きを英語で質問し合うという理科の授業が英語で行われた。

最後に，北谷町では平成18年度から英語部分イマージョン教育に力を入れており，音楽や体育などの技能教科を中心に，年間10時間程度の英語による授業を実施している。

2. ニーズに応じた研修

このような本県小学校英語教育における多様なニーズに対応するために，本県教育委員会においても，レッツ・トライ・イングリッシュ事業(平成17～19年)を立ち上げ，小中高連携の英語教育の取り組みが始まった。さらにマスター・イングリッシュ事業(平成20～22年)を継続実施中である

県立総合教育センターでは平成17～20年まで英語イマージョン教育およびICTを活用した英語実践指導力の向上を目的とした小学校英語活動研修を40名の先生方に実施した。平成21年度は「ICTを活用した外国語活動講座」(全20回講座)をWeb配信している。電子黒板を活用した『英語ノート』の活用方法や英語教育の理念，理論，実践を講義する本講座は3年間の計画で，外国語活動の必修化に向け，5・6学年の担当教諭1,500名が受講する予定である。

実践報告

子どもの“わくわく感”を大切に!

神奈川県座間市立入谷小学校教諭　前田 善仁

1. 校内研究会 ～ゼロからのスタート～

わが校では，平成23年度から始まる「外国語活動」全面実施を前に，神奈川県および座間市からの研究推進委託を受け，昨年度から「進んで聞こう，話そう，わかり合おうとする子をめざして」という研究主題を基に「外国語活動」の研究を進めています。

しかし，研究を始めるにあたっては課題がたくさんありました。先生方からは，「コミュニケーション能力の素地って何?」「担任主体の外国語活動って，どうやって進めればいいの?」という疑問の声が上がったのです。

そこで，「小学校学習指導要領解説(外国語活動編)」を作られた，前文部科学省教科調査官であり，現在，大阪樟蔭女子大学の菅正隆教授を招聘し，「小学校外国語活動について」というテーマで本校の職員および市内の先生方を対象に講演をしていただき，全面実施に向けて校内研究をスタートさせました。

2. 担任は，「外国語」を学ぶモデルになるんだ!

菅先生の話を受け，英語が得意ではない小学校の先生でも，子どもと楽しく関わり，なんとか伝えようとする姿が大切なことがわかりました。そこで，それまではNET(外国人講師)が中心となって進めていた授業を，学級担任が中心となって子どもと共に関わり合う授業が進められていきました。

授業を進めるにあたり，平成21年度は15時間，平成22年度は25時間と，「外国語活動」の全面実施に向けて，文部科学省から配布された『英語ノート』を活用しながら，5・6年生で授業をすることにしました。

それまでは，余剰時間や総合的な学習の時間を使って，1～4年生も英語に触れる機会がありましたが，外国語を学ぶ“わくわく感”を大切にしたいという考えから，新学習指導要領に基づき，5年生から「外国語活動」の授業を行うことにしたのです。

初めての授業研究では，それぞれの先生方は，ドキドキ。それでも，菅先生から「外国語を学ぶモデルでいいんだよ」との助言を受け，子どもたちと共に笑顔で "Hello." と目と目であいさつしながら授業に臨みました。

3. 1～4年生の先生方は，どう関わるの?

5・6年生の学級担任が授業を始める校内研究体制が整い，研究推進校として市内に授業公開するなど，研究は始まりましたが，1～4年生の先生方がこの研究にどのように関わっていくのかが課題となりました。

しかし，「外国語活動」の全面実施に向けて，どの先生も自信をもって授業に臨むことができるようにしよう，という教師自身の技量を高めるといった目的も研究の一つでした。

そこで，5・6年生の学級担任とチームを組み，全ての先生が「授業研究部」と「カリキュラム研究部」に属すことで，本校の研究体制を整えました。「授業研究部」では，主に「指導案作り，ICT活用に向けた研修，教材・教具の開発・作成」を中心に指導力を高めるための工夫に向けて取り組みをしました。『英語ノート』を活用した「指導案作り」研修会では，実際にチームごとに電子黒板を使用したり，教材・教具を作成しながら，教師同士で先生役と児童役になり模擬授業を行いました。また，「カリキュラム研究部」では「小学校と中学校との連携，児童のアンケート調査」などを行いました。

4. 『英語ノート』活用例

文部科学省から，『英語ノート 指導資料』が全国の小学校に配布されています。学級担任としては大変参考になり，授業案作りではこの資料を活用しながら研修を進めています。

この資料に出てくる「ミッシング・ゲーム」「バズ・ゲーム」「カルタ取り」「キー・ワード・ゲーム」などは実際に先生方が行ってみて初めて理解ができると思います。

『英語ノート 1』(Lesson 8 ～時間割を作ろう)

●「聖徳太子ゲーム」

Lesson 8の4時間目の授業で行うゲーム。児童には身近な教科名の言い方を知らせてあり，その際に行うゲーム。グループで前に出て，「時間割カード」(数枚用意しておく。教材部ではラミネーターで加工するなどして工夫している)を引き，それぞれの単語を一斉に発音する。ほかの児童が何の教科の単語を発音したかを当てる。

『英語ノート 2』(Lesson 7 ～自分の一日を紹介しよう)

●「おはじきゲーム」

Lesson 7の2時間目の授業で行うゲーム。児童は“get up”や“go to bed”などの16の表現をすでに耳にしている。この16の動作を英語で確認しながら，テキストp.47を開き，おはじきを各自5個好きなところに置く。児童は英語を聞いて，絵と同じ英語ならおはじきを取る。

5. 『英語ノート』に隠された秘密

『英語ノート』は優れものです。それは間違いありません。「英語を教える」のではなく，「英語を通して」児童同士が関わり，学級担任が子どもと共に楽しく学ぶことが大切です。カードをもらいに行くときは，「目と目で」あいさつをし，もらったら "Thank you." と笑顔で言い合える子どもたちを育てていきたいと思います。日本と外国には時差があること。国旗の幅が日本と違う国があること。日本の「3」は，韓国語と似ていることなど，『英語ノート』に隠された秘密はたくさんあります。

こうしたことについて，校内研究会を通して先生方が学び，児童と共により良い「外国語活動」の時間を作り上げていくことこそ，今求められていることであると思っています。

本校では，平成21年度に行った授業を基に，「誰でも，どこでも」をキー・ワードに，指導案や教材・教具の作成を計画しています。それを，市内のみならず全国に発信していきたいと思っています。

6. さて?　子どもはどう変わったの?

「カリキュラム研究部」では児童へのアンケートを取り，変容を調査しています。この1年間は，児童の英語に対する気持ちも大きく変わった1年であったと思います。アンケートの結果では，「もし，外国人があなたに英語で話しかけてきたらどうしますか?」との問いに，平成20年度の5年生で「英語で受け答えをする」と答えた児童はわずか5.8%でした。しかし，平成21年度には，同じ児童に質問をしたところ，32.6%の児童が「英語で受け答えをする」と答えています。英語ではないが，日本語なら外国人と関わってみると回答した児童を含めると92.8%，つまり6年生の多くの児童が外国人と臆せずに話そうとする気持ちに変わってきたことは，本校の研究の成果であると確信しております。

研究はまだまだ始まったばかり。毎回，本校のために熱心にご指導いただいております菅先生に感謝しつつ…今後も教職員一同研究を進めていくつもりです。

本校では平成23年1月28日(金)に「外国語活動」研究発表会を開催します。当日は菅先生の講演も予定しています。

実践報告

目的意識や必要感のある活動を！

～コミュニケーション能力の素地を培う外国語活動～

福岡県福岡市立筑紫丘小学校教諭　本水 恭子

1. 本校の外国語活動の取り組み

本校は，福岡市のモデル校として，平成15年度より全学年年間35時間の外国語活動に取り組みました。また，平成16年度より校内研究として外国語活動の研究に取り組んでいます。

昨年度は，「外国語活動を通して，コミュニケーション能力の素地を身につけた子どもを育てるために，目的意識や必要感のある活動作りの工夫」の研究に取り組みました。

平成23年度より，新学習指導要領が完全実施となり，高学年の外国語活動も年間35時間の必修となります。

外国語活動の工夫のポイントを，『英語ノート』の活用も含めて，昨年度実施した単元を通して紹介します。

2. 目的意識や必要感のある活動を！

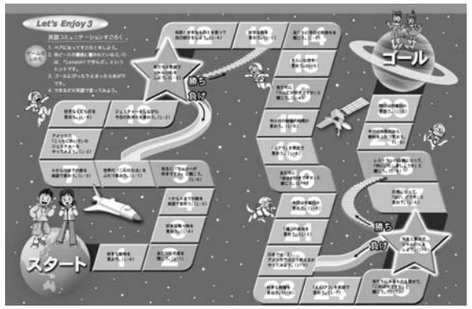
昨年度は，児童に外国語活動をする目的意識をもたせることと，英語を使う必要感のある活動作りの工夫について研究を深めました。

(1)『英語ノート 1』（Let's Enjoy 3 ～コミュニケーションすごろく）

●目標

・自分達の知っている簡単な英語を使って，すごろく大会を楽しむ。（目的意識）

・ALTや友だちに自ら進んでたずねたり答えたりする。（必要感）



（文部科学省『英語ノート 1』pp.62～63より）

●単元計画

時	活動内容　※は評価規準
1	・これまでの活動をふり返り，すごろくの楽しみ方を知る。 ※意欲をもって，たずねたり答えたりしながら，協力してすごろくを楽しんでいる。
2	・グループごとに活動をふり返りながら，すごろくの問題（答える問題，たずねる問題，Who am I?）を作る。 ※ふり返りをしながら，協力して問題作りに取り組んでいる。
3	・自分達で作った「筑紫丘小バージョンすごろく」を楽しむ。 ※意欲をもって，たずねたり答えたりしながら，グループで協力して，すごろくを楽しもうとしている。

●工夫のポイント

・『英語ノート』の「コミュニケーションすごろく」を参考にしながら，自分達のこれまでの外国語活動の財産（例：あいさつ，数，色，食べ物，誕生日，スポーツなど）を使って，オリジナルの「筑紫丘小学校バージョンすごろく」を作りました。

・日常生活や学校生活に関わることを問題（問題例：What food do you like? / What subjects do you like? / When is your birthday? など）を通して考え，友だちとの関わりを大切にした体験的なコミュニケーション活動を中心に仕組みました。

・順番にすごろくの問題に答えるようにしますが，協力や助け合いもポイントにつながるようにしました（例：1人で＝サイコロの目のまま，グループの友だちと相談して＝サイコロの目からマイナス1，ALTにたずねて＝サイコロの目からマイナス2，など）。

●結果

・それまで外国語活動にあまり積極的ではなかった児童も，自分達で楽しもうとする目的をもって作成したすごろくということと，グループで協力したり助け合ったりする必要感を感じたことで，コミュニケーションの楽しさを感じて意欲的に活動する姿が見られました。

(2)『英語ノート 2』（Lesson 8 ～オリジナルの劇を作ろう）

●目標

・『桃太郎』の英語劇を外国の方と一緒に楽しむ。（目的意識）

・積極的に英語や身振り手振りなどを使って，外国の方になんとかして伝えようとする。（必要感）

●単元計画

時	活動内容　※は評価規準
1	・世界の物語について興味をもつ。 ・『桃太郎』の英語絵本の読み聞かせを聞く。 ※場面を想像しながら興味をもって聞こうとしている。
2	・6つの場面ごとに分かれたグループで役を決める。 ・登場人物の動きや簡単な会話について話し合う。 ※自分の気持ちや考えを伝えようとしている。
3	・グループごとに簡単な英語や動きを考えて劇の練習をする。 ・グループごとに工夫したところを見せ合う。 ※気持ちをこめて身体表現を加えて表現しようとしている。
4	・グループごとに簡単な英語や動きを考えて留学生と劇の練習をし，発表する。 ※自己表現しながら，ゲストと一緒に劇活動を楽しんでいる。

●工夫のポイント

・『英語ノート』の中から，話の内容が簡単で劇化しやすいように，児童の誰もが慣れ親しんでいる民話『桃太郎』を選びました。

・同じ会話やくり返し出てくる登場人物の台詞（表現例：KIBIDANGO, please. / Sure. Here you are. / Thank you. / You're welcome. Let's go.など）から，英語のもっているリズムの楽しさを体感させました。

（文部科学省『英語ノート 2』p.50より）

・活動がより活発になるように，英語の台詞や身体表現を，自分達で考えたり，辞書を活用したり，ALTにたずねたりました。

・自分の言いたいことや思いをなんとかして伝えようとする力をつけるため，留学生と一緒に劇を作り上げる活動を設定しました。

・『桃太郎』を6場面に分けてグループごとに演じることにより，みんなの前で表現することに対する抵抗感を少なくしました。

・自分達の思いや考えを外国の方になんとかして伝える場を設定し，実際に自分達の英語や身振り手振りが外国の方に伝わったという喜びを味わわせることができるようなコミュニケーション活動を仕組みました。

●結果

・単なる英語の台詞を覚えて行う劇の発表ではなく，自分達で台詞や動きを考え，留学生になんとかして伝え，一緒に活動を楽しむという目的意識や必要感をもたせたことで，コミュニケーション能力の素地を培う活動をすることができました。

3. おわりに

新学習指導要領完全実施の前に，本校では，これまでの実践を大事にしながらも，学習指導要領に示された外国語活動の目標や内容に沿って見直しを図り，その趣旨に沿った活動を工夫し，取り組んでいるところです。『英語ノート』には，語彙や語法・文化背景に関する事項の解説などもあり，授業が円滑に進められるように工夫されています。児童の実態に合わせ，『英語ノート』も積極的に活用していきたいと考えています。

今後は「目的意識や必要感」と合わせて，「人との関わり」「意味のあるやりとり」や「評価」も考えながら活動を工夫し，児童も担任も楽しい外国語活動を目指していきたいと思っています。

Say "Hello" with 13 Alison!

根本 アリソン

イギリス出身･1989年より福島県で英語講師として活躍中

■Down under…
オーストラリアでの忘れられない体験

福島県の大熊町は平成元年にオーストラリアのバサースト市(Bathurst)と姉妹都市を結び，毎年活発に国際交流を行っている，珍しい田舎町です。昨年の11月，提携20周年の記念事業で，25名の訪問団の通訳として訪ねました。

バサースト市はシドニーから北西へ200km，険しい山々(Blue Mountains) を越えて，広い草原の真ん中にあります。1815年から白人が住み始め，当時の建物が今でも利用され，タイムスリップした気分になる，美しい町です。現地のことばや，日常生活はイギリスと変わりませんが，今回いちばん驚いたのは気温の変動が激しいことです。南半球の11月は春から夏に入る時季なのに，日中の気温は約40度まで上がり，紫外線が非常に強く，帽子やスカーフ，日焼き止めなどが手放せませんでした。しかし，空気が乾燥しているため，汗は出ませんし，石造りの家の中は涼しくてエアコンはいりません。

今回のタイトルDown under…とは，北半球の人々から見たオーストラリアを「地球の真下」と意味する表現です。次回も旅の話を続けます。　（福島県双葉郡大熊町　外国人英語講師）

研究会紹介

神戸市小学校教育研究会
国際教育部

市内の小学校・特別支援学校教員170名で構成されています。その中の英語活動グループでは，これまで市教委と連携しながら，積極的に全市に向けてガイドブックや音声教材を作成したり，小中連携委員会で連携を模索しています。また，部独自で英語活動の授業を公開したり，研修会を開いたりして，誰にでもできる英語活動の提案，普及に努めてきました。

今年度からは，市教委が従来から中学校に全校配置していたJTEを主とするALTに加え，小学校のためにJTEを28人増員しました。これに伴い，いかにしてこのALTと共に，昨年までの業務委託による外国人講師とは違う，神戸らしい，神戸ならではの英語活動を創り上げ，全市の先陣を切っていくのかが英語活動グループの大きな課題となってきます。メンバーの創意と工夫と英知で，さらなる飛躍を目指します。

国際教育部部長　東向 信明
（兵庫県神戸市立こうべ小学校校長）

英語活動セット

監修　菅 正隆（大阪樟蔭女子大学教授）

『英語ノート』付随教具を自ら作るのは，多忙な先生方にとって大きな負担です。このセットを使えば余裕をもって授業に臨むことができます。別売で教師用のミニゲームブックもご用意しています。(B5 判 28 ゲーム収載, 定価 500 円)

定価 780円（税込）

■セット内容
『英語ノート』収納ケース
クーピー６色セット
○× プレート
サイコロ
おはじき
『英語ノート』活動カード袋

これでできる！『英語ノート１』完全対応
授業指導書１ パーフェクト版
これでできる！『英語ノート２』完全対応
授業指導書２ パーフェクト版
定価各 18,900 円

『英語ノート』を使ったさまざまな授業の形態や場面に応じた指導法を①指導書 2 種類（ソロ用，TT 用），②指導法 DVD,③音声 CD,④ワークシート集，⑤CD-ROM などで丁寧に解説してある指導書セットです。校内研修などにおすすめです。

小学校英語情報誌
Hello, Kids!

Vol.4-1（通巻13号）
定価120円（本体114円）
送料80円

平成22年5月20日印刷　平成22年5月25日発行（年2回発行）　編集兼発行人　山岸　忠雄
印刷所　株式会社興陽社　〒113-0024　東京都文京区西片1-17-8
発行所　開隆堂出版株式会社　〒113-8608　東京都文京区向丘1-13-1
☎03(5684)6121（営業），(5684)6118（販売），(5684)6115（編集）　http://www.kairyudo.co.jp/

開隆堂出版株式会社
〒113-8608　東京都文京区向丘1-13-1　☎03(5684)6111

北海道支社　〒060-0061　札幌市中央区南一条西6-11　札幌北辰ビル8階　☎011(231)0403
東北支社　〒983-0043　仙台市宮城野区萩野町1-11-1　萩野町Mビル2階　☎022(782)8511
名古屋支社　〒464-0802　名古屋市千種区星が丘元町14-4星ヶ丘プラザビル6階　☎052(789)1741
大阪支社　〒550-0013　大阪市西区新町2-10-16　☎06(6531)5782
九州支社　〒810-0075　福岡市中央区港2-1-5　FYCビル3階　☎092(733)0174